

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104506
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム 小野の里
訪問調査日	平成20年8月25日
評価確定日	平成20年10月6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月29日

【評価実施概要】

事業所番号	4670104506
法人名	有限会社 ドリーム・ミソノ
事業所名	グループホーム 小野の里
所在地	鹿児島市小野2丁目10番18号 (電話) 099-220-7070

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOさつま		
所在地	鹿児島市下荒田2丁目48-13		
訪問調査日	平成20年8月25日	評価確定日	平成20年10月6日

【情報提供票より】(20年6月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 7月 8日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 8人, 非常勤 8人, 常勤換算 14.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨陸屋造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	植村病院、外園整形外科、ブライト歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関には季節の花、共有スペースにはホームの行事時の利用者の楽しそうなスナップ写真、利用者手造りの切絵や燈籠が飾られている。整理・掃除の行き届いた清潔感溢れる生活環境で利用者は個別性を重視した支援を受けながら穏やかな日々を過ごしている。管理者・職員のチームワークも良くケアのあり方に日々研鑽し、自問自答しながらも前向きに取り組んでいる。地域との関係体制構築にも努力中であり、成果も期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回評価での改善課題の理念は職員全員で検討され、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作り上げている。今後も1つ1つ確実にクリアしていくための改善計画を掲げ、継続して取り組んで行かれることを期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	職員会議や勉強会で自己評価、外部評価の意義を話し合い、意味を理解し、職員一人ひとりが自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	定期的に運営推進会議を開催し、ホームからの報告や地域住民、家族からの意見・要望をもらっている。意見・要望はサービス向上に活かしている。今後とも近隣の高齢者に対してホーム側から積極的にアプローチして行きたいと取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	家族会や運営推進会議で意見をもらったり、面会時、何でも話せる雰囲気作り、関係づくりを大事にしている。出された要望などは職員会で話し合い、運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	町内会に加入している。ホームで参加できる行事や地域の朝市場を利用し、住民との交流を図っている。回覧板を通して地域との交流を深めて行こうと努力中である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全体で地域密着型サービスの意義を話し合い、地域との関係を大事に地域で安心した生活ができるよう、事務所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1・2階合同で朝礼をし、毎朝、申し送り時に唱和している。理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事に参加している。地域の朝市場を利用し、地域との交流を大事にしている。ホーム主催の秋祭りには地域の参加をもらっている。回覧板を通して地元へ浸透していく試みも実行している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議や勉強会で自己評価、外部評価の意義を話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価の結果についても話し合い、サービスの向上に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヵ月に1回開催されている。前回の会議では高齢者の食事について試食もし、報告、話し合いがなされている。近隣の高齢者に対しても積極的に交流していく姿勢をもっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度に関する相談やサービス利用のあり方などの相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調変化時には詳細に家族に連絡している。金銭管理や暮らしぶりについては面会時に報告したり、確認してもらったりしている。		金銭管理や暮らしぶりは定期的に報告し、家族とのより充実した信頼関係を築く取り組みが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進委員会で意見をもらったりまた面会時に聞いて運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけている。また、普段から1・2階合同で行事やコミュニケーションを図り、顔見知りとなり、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画はないが、外部研修は段階に応じた研修に参加、報告し、全職員共有ができています。月、1回他のグループホームとの勉強会やホーム内での研修を行い、職員の技術の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市の認知症グループ連絡協議会に加入している。他の事業所(4カ所のグループホーム)の職員と毎月、勉強会や意見交換など交流を行い、サービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、ホームにきてもらい、利用者・家族と話し合いの場を持って納得のうえ利用開始し、入居後もなじめるように家族の面会を多くもっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者より昔の風習や生活の知恵を学んでいる。利用者の能力を生かす場面を多く作り、一緒に喜んだり、楽しんだりして支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのように生活したいか、会話や行動の中から思いを気づいたり、かわりのあった人からの情報を家族、職員間で話し合い、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の要望を聴き、介護記録をもとに職員全体で検討、話し合いそれらを反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価をして見直しをしている。状態変化に応じて話し合いをし、家族や利用者の希望を聞いて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族などの状況に応じて病院受診や墓まいりなど、必要な支援を柔軟に行っている。		職員のケアに対する柔軟な感性を生かし、小さな事故につながる恐れのある状況を発見し、対策を共有化する取り組みの充実が望まれる。(ヒヤリハット対策)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族などが希望しているかかりつけ医の受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時本人・家族と重度化した時の意向を確認している。面会時にも状況を伝え、医療機関と連携をとりながら家族の意向に添えるよう、全職員方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため申し送り時に尊厳への配慮について話している。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。採用時、個人情報保護に関する誓約書も取っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが利用者の心身の状態に留意しながら利用者の希望や状況に応じた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を聞いて食事のメニューを決めている。準備から後片付けまで職員と一緒にやっている。同じテーブルで会話を楽しみながら利用者のペースに合わせてサポートしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、支援できる体制をとっている。利用者の体調をチェックし、ゆっくり入浴を楽しんでもらっている。入浴拒否の利用者も声かけの工夫により、入浴できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の体調や生活歴を把握し、草取りや洗濯たたみなど役割をもって生活している。また、塗り絵やちぎり絵など楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブなど利用者の心身の状態に応じて戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかけず職員の見守りを重視している。外出しそうな利用者にはさりげなく一緒について行くなど安全に自由な暮らしができるように工夫している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回防災訓練(昼、夜間)を、行っている。地域の分遣隊の協力を得て利用者と一緒に、救命救急の講習も全職員受けている。		地元の消防団や近隣の会社に、利用者の身体的情報を伝えておくなど協力体制の充実や、非常食の準備等も検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた旬の食材をとりいれた献立を作成している。身体チェック表に水分・食事量を記入し、健康管理を行っている。管理栄養士の指導を得る手段を模索中である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、日めくりカレンダーなど工夫され、生活感や季節感を意識的に取り込み、利用者はゆったりと過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望を考慮し、なじみの家具や仏壇、写真などが置かれて明るい整理整頓された個別性のある居室づくりができています。		